

接続中期－2（1年生4月～GW）

なかよし いっぱい

教師や友達などに関わる中で進級した喜びを感じ、意欲的に学校生活を送ろうとする時期

＜幼児期に経験した活動をしたが、幼児期の学びを
発揮したりして、安心感をもつ体験を＞




安心の中で自己発揮できるように、一人一人の育ちに
応じた関わりをしたり、幼児期に体験した活動を取り入
れたりする工夫を

事例19 接続中期—2 がっこうの せいかつ

4月 生活科（学級活動等と関連）

小学校

<p>自立心が発揮されている姿を中心に</p> <p>【知識及び技能の基礎】</p> <p>幼児期に経験したことを発揮しながら、自分でできることは自分でできるようになる。</p>	
<p><活動のねらい></p> <p>気持ちのよい学校生活を送るためのルールやマナーを保育所（園）や幼稚園での経験と比べ、幼児期に育った力を発揮すると楽しく安心して学校生活を送ることができるという見通しをもつことができるようにする。</p>	
<p><接続を踏まえた援助のポイント></p> <p>幼児期に経験したことを発揮しながら、自分でできることは自分でしようとするような指導の工夫をする。</p>	
<p>主な学習活動</p>	<p>指導上の留意点</p>
<p>1. 保育所（園）や幼稚園でできるようになったことを出し合う。</p> <p>2. 靴の入れ方や持ち物の整理の仕方、掃除の仕方等について保育所（園）や幼稚園と同じところや違うところについて考える。</p> <p>3. 実際に活動する。</p>	<p>○ 幼児期における児童一人一人の実態を把握しこれまでの経験を出し合いながら、自信をもって学校生活を送ることができるようにする。</p> <p>○ 教師が一方的に教えるのではなく、児童の発言や行動を認め褒めることで自信をもたせ、学級全体で共有する。</p> <p>○ 十分に時間を取って、かばん棚の整理や雑巾がけをすることで、幼児期に育った力が発揮できるようにする。その際、楽しく安心して学校生活を送ることができそうだという見通しをもつことができるように支援する。</p>
	
<p>実践事例</p>	
<p><元気よく 挨拶できるよ></p> <ul style="list-style-type: none"> 入学式の校長先生の話の中で、呼びかけに返事をしたり、「ありがとうございます」と、お礼を言ったりする姿が見られる。幼児期に身に付いた習慣から、大きな声で元気よく返事や挨拶をすることができるようになってきている。その態度をしっかりと褒め、認めることで安心して学校生活をスタートすることができる。 挨拶するときには、相手の顔を見て、大きな声で挨拶した後にお辞儀をするという技能を幼児期に習得している児童もいる。このような児童の挨拶の仕方を取り上げ、全体で共有することで、気持ちのよい挨拶ができるようになる。 日々の健康観察や発問に対して元気よく答える姿を褒め、安心して学校生活を送ることができるようにする。また、幼児期に十分な経験をしていない場合は、個別に声をかけたり、気持ちのよい挨拶や返事の仕方を教えたりすることで自信をもたせるようにする。そのためにも、担任は、入学前の保幼小連絡会の資料や北九州市保育所児童保育要録、幼稚園幼児指導要録等を基に、児童一人一人の実態を確実に把握する必要がある。 	

<話の聞き方は、保育所（園）、幼稚園等のとくと一緒だね>

- ・接続中期—1の3月は、卒園式や修了証書授与式に向け、特に、話の聞き方や椅子の座り方等の技能を習得している。式（約1時間程度）では、姿勢よく椅子に座り、相手の顔を見て話を聞くことができるようになってきている。また、卒園・修了証書のもらい方や返事の仕方等、式に臨むための技能を習得している。このような実態を踏まえた上で、小学校での教師の関わりを考えていく必要がある。例えば、入学式において、姿勢よく座り、大きな声で挨拶や返事ができる姿に対して、「長い時間（30分間）よく、我慢できたね」ではなく、「座り方や返事の仕方が立派だったね。保育所（園）や幼稚園で、式のとくはどのようにすることが大切か、ちゃんと分かってできていたからね。」と、幼児期に培った力を認めながら、これまでの環境とは違う雰囲気の中でも自信をもって過ごせたことを褒め、学校生活が楽しみになるような声かけや支援が必要になる。



- ・特別な支援が必要な児童においては、入学式で不安になり、落ち着きがなくなったり、泣いたりすることも予想される。その場合は「大丈夫だよ」と声をかけたり家庭で学校生活のよいイメージを話してもらったりすることで、安心して小学校生活をスタートするように支援することが大切になる。

<靴をそろえて靴箱に入れたり、自分のかばん棚を整理したりできるよ>

- ・靴箱に靴をそろえて入れることや棚の整理は、幼児期にできるようになっている。入学後、靴の入れ方やかばん棚の整理の仕方を指導する際は、この力を基に児童にまず実践させることで幼児期に育った力を確認することができる。その中で、「〇〇さんみたいに、かばんと道具を整理して棚に入れると、使いやすだね」「〇〇さんみたいに、揃えて入れると、気持ちいいね」などと褒め、全体で共有し、どの子も自信をもって取り組むことができるようにする。



<自分で手紙を折って、しまえるよ>

- ・入学直後は特に配付物がたくさんある。担任は全員分の手紙を折り配付することが多い。しかし、児童は幼児期に遊びや生活を通して、「折る」という技能を経験し習得している。折り紙遊びでは、角と角を合わせて折ること、折り目は指で何度もなぞること等を経験し、できるようになっている。また、配付物が、一人一人に行きわたるように手紙を配り、自分の手紙を丁寧に二つ折りして通園かばんに入れる経験を積んでいる。そこで、小学校では「この手紙を持って帰れるように、きれいに折れるかな」と問いかけると、「できる、できる。保育所（園）や幼稚園でやっていたよ」という児童もいるので、実際にさせてみて、全体に共有することが学校生活の自信へとつながる。



<考察>

○幼児期に培った力の発揮を具体的に認め褒めることが大切になってくる。児童がこれまでとは違う雰囲気の中で安心感や自己肯定感をもつことは、学校生活への自信につながっている。

事例20 接続中期－2 はじめに

4月 生活科（国語等との関連）

小学校

<p>文字への関心・感覚が高まる姿を中心に</p> <p>【知識及び技能の基礎】</p> <p>いろいろな線や形を繰り返し書くことで、文字を書くときの正しい姿勢や鉛筆の持ち方を理解しようとするようになる。</p>	
<p><活動のねらい></p> <p>正しい姿勢や鉛筆の持ち方について関心をもたせ、これまでにくせになっている姿勢や鉛筆の持ち方との違いに気づき、理解して取り組むことができるようにする。</p>	
<p><接続を踏まえた援助のポイント></p> <p>文字を書くことについては、幼児教育諸施設の多様さから、児童の経験内容が大きく異なる現実がある。お店ごっこや郵便ごっこなどの遊びの中で、必要感を伴って文字を書く経験をしている児童は、文字を書くことは、自分の思いや考えを相手に伝えことができることに気付いている。</p> <p>しかし、基本となる「正しい姿勢」や「正しい鉛筆の持ち方」に関しては、入学前にすでに「自分のくせ」となっている現実がある。</p> <p>児童の小学生になった喜びの気持ちを受け入れながら、新たな気持ちで「文字を書く」という学習に期待感をもつことができるように、一人一人の実態をとらえ、学習の展開を工夫することが重要である。</p>	
主な学習活動	指導上の留意点
<p>1. 教科書「書写」の「じをかくしせい」を見る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 唱え歌をみんなで声に出して言う。 <p>「あしは ペったん せなかは ぴん おなかとせなかに ぐう ひとつ かみを おさえて さあ かこう」</p> <p>2. 唱え歌に合わせて正しい姿勢をする。 自分で姿勢を確かめる。</p> <p>3. 「えんぴつの もちかた」を見る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書P4を見て、正しい鉛筆の持ち方を知る。 ・ 自分の持ち方と比べる。 <p>4. 先生と一緒に持ち方を練習する。</p> <p>5. いろいろな線を鉛筆でなぞる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 楽しく興味をもって唱えることができるようにする。ゲームのような感覚で調子よく覚え、これから先、自分で「唱える」ことができるようにする。 ○ 唱え歌は入学前に、各幼児教育諸施設でも行われていることもあるが「歌のようにできているかな」と声をかけ、自分で確かめることはとても大切であるということを、意識付けていく。 ○ できるところをしっかりと称賛し、自分の行動につながるようにする。 ○ 鉛筆の持ち方については、すでにくせになっている児童も多いと思われる。否定するのではなく、「小学生」「一年生」「教科書」など、入学した喜びの気持ちをポイントにして、新たな気持ちでやってみようとする意欲を高める。 ○ 一人一人の状況を把握し、個別に指導助言していくようにする。

実践事例

<教科書「書写」を見る>

T：入学式の時、椅子に座っている皆さんを見て、先生はびっくりしたことがあります。それは、1年生、皆さんの姿勢がとてもよいということでした。「足はぺったん、背中はぴん」で、お話ししている校長先生をしっかりと見て聞いていましたね。「聞く」の姿勢がとても素晴らしかったです。「聞く」ときの姿勢がよいので、簡単かもしれませんが、今日は「書写」という教科書を見ながら「書く」ときの姿勢について「聞く」と同じくらいよい姿勢ができるか、皆でやってみましょう。ぞうさんの絵が付いているのが「書写」の教科書です。

C：「しゃしゃ」じゃなくて「しょしゃ」。国語の本みたいやね。

(C：「書写」という教科書があることに興味をもつ。)



<声に出して唱え歌を言い、自分でやってみる>

C：「あしはぺったん、せなかはぴん・・・」教科書の絵を指差しながら、皆で唱える。

C：唱えながら、自分の姿勢を正してみる。

T：やっぱり姿勢がとてもよいです。正しい姿勢になっているかなと思ったら、「足はぺったん・・・」と言ってみるといいですね。



<正しい鉛筆の持ち方を知り、やってみる>

T：そのよい姿勢だったら、きれいな字が書けそうですね。「えんぴつのもちかた」のところを見て、一緒にやってみましょう。

C：難しい。できないなあ。

C：先生、見てください。幼稚園のとき「お箸の持ち方と同じだよ。1本増えるだけよ。」って先生が教えてくれたよ。

T：難しいときは「これでいいですか」って、先生に見せてね。間違ってもいいよね。練習したらいいのだから、心配しないでやってみようね。今までと違うなって、自分で気が付くことはとてもすごいです。



<いろいろな線をなぞってみよう>

T：姿勢もよくて、正しい鉛筆の持ち方で字を書くと、きれいな字が書けるようになりますよ。

T：「いろいろなせん」の紙で、ゆっくり、しっかりとなぞってみましょう。

「足は」「ぺったん」「背中は」「ぴん」…と、TとCで唱え合う。

C：ギザギザ簡単！

C：全部、書きました。もう一枚、書いてもいいですか。

(T：正しい姿勢や鉛筆の持ち方に気を付けて書いているか、個別に声をかけていくようにする。)



<考察>

○幼児期で培った力を称賛しながら、正しい姿勢、鉛筆の正しい持ち方を知らせることで、やる気をもって学習に臨むことができるように働きかけていくことが大切になってくる。

○一人一人の状況の把握に努め個別に支援することが、安心して学習する気持ちにつながる。

事例21 接続中期—2 がっこう たんけん

4月 生活科：がっこうだいすき

小学校

思考力が発揮されている姿を中心に

【思考力、判断力、表現力等の基礎】

学校を探検する活動を通して、幼児期の経験と比較したり関連付けたりして、気づきや思いを伝えようとする。

<活動のねらい>

小学校の様子と保育所（園）、幼稚園等との様子を比べる活動を通して、共通点や相違点に気付くとともに、学校の施設や学校生活を支えている人のことが分かり、楽しく安心して遊びや生活を送ろうとする思いをもつことができるようになる。

<接続を踏まえた援助のポイント>

小学校の様子と、保育所（園）や幼稚園等との様子で、「似ているところ」と「違うところ」という視点をもたせることで、比較、関連付けという思考が始まる。

主な学習活動	指導上の留意点
1. 前時の活動を振り返り、本時のめあてを確認する。	
<p>めあて 学校探検をして、思ったことや気付いたことを伝え合おう。</p>	
2. もう一度、学校を探検する。 3. 見付けたことや気付いたこと等を伝え合う。 4. 本時の学習を振り返り、次時へとつなぐ。	○ 友達と一緒に、自分が興味をもった場所を探検に行き、働いている人や上級生の様子を見たり話を聞いたりする活動を通して、学校の施設の様子に気付くことができるようにする。 ○ 保育所（園）や幼稚園等の様子との共通点と相違点という視点をもたせることで、比較や関連付けをしながら、気付いたことを発表できるようにする。

実践事例

<保育所（園）、幼稚園等と同じ！ちがう！>

T：学校の中を探検してみて、どうでしたか。

C：楽しかったです。この前よりもいっぱい見付けました。

C：発表したいです。

T：学校探検をして、どんなことを見付けましたか。

保育所（園）や幼稚園と似ているところや違うところはありましたか。

C：教室がたくさんありました。ええと、幼稚園よりたくさんありました。

C：3階にも教室がありました。幼稚園のとき、僕は2階のお部屋でした。小学校の教室の方が大きいです。

T：大きいってというのは、「広い」ってことですか。



C：はい。そうです。

C：音楽室とか理科室とかあって、理科室には骸骨がありました。図書室はここです。（黒板の掲示物を指差す）

C：幼稚園にも、絵本が置いてあるところがありました。

C：保育園にも本と本棚はあったけど、あんなにたくさんはなかったです。

T：そうなんです。保育園や幼稚園にも絵本コーナーがあったんですね。本棚や本の数が違うというところに気が付いたのですね。

C：先生たちの部屋がありました。幼稚園の先生たちの部屋より広かったです。

T：先生たちの部屋は「職員室」といいますね。職員室に先生はいましたか。

C：先生たちがいました。

C：廊下や教室が幼稚園より広いです。みんなで歩いてはまだまだ広いです。

C：保育園も廊下はあるけど、こんなに長くないです。小学校より短かったです。

C：給食室で、たくさんの人が給食をつくっていました。

C：保育園にも給食室があったけど、つくる人は3人しかいなかったです。

C：さっき、たくさんいました。

T：小学校の給食室では、学校皆の給食をつくっていますからね。つくる人は何人くらいいたでしょうね。

C：えっと、何人くらいだろう。もう一回、確かめに行きたいです。

C：僕ももう一回探検に行きたいです。

C：生活科室もおもしろそうでした。虫かごとか、けん玉とかがたくさんありました。

C：カルタとかトランプとかけん玉とか幼稚園と同じものがありました。遊びたいです。

<もう一回、行きたいな 聞きたいな>

T：なるほど。聞いてみたいことも、もう一回行きたいところもいっぱいあるようですね。保育所（園）、幼稚園等と似ているところと違うところをたくさん見付けられましたね。次はどうしたいですか。

C：私は、もう一回給食室に行って「何人でつくっているのですか」って聞きたいです。

<考察>

- 校舎内の探検で気を付けることを出し合う中で、保育所（園）、幼稚園等と同じく、皆が気持ちよく生活するための小学校のルールやマナーがあることに気付くような言葉かけをしていく。
- 「保育所（園）、幼稚園等と似ているところ、違うところ」という視点をもたせることで、「比較、関連付け」という思考が始まる。児童にとっては、考える手がかりとなる言葉である。例えば、「運動場は、保育所（園）、幼稚園等よりも広い→だから、たくさん遊んでみたい」という次の活動への思いをもち、安心して小学校生活を送ることにつながっている。また、「〇〇は、保育所（園）、幼稚園等で、やったことがある→だからできる。安心だ」と自分の経験と結び付け、小学校生活に自信と見通しをもつことにもつながっている。幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を小学校教育に接続するためには、教師の意図的、意識的な働きかけや言葉かけが大切になってくる。

